

「農業は未知の可能性を秘めた職業」



井上 周治郎 (29 歳) 新規参入
(松山市)

1 就農の動機・理由

親戚に柑橘農家があり、幼い頃から農業が身近な存在にあった。大学進学とともに農業という職に憧れを抱くようになり、将来は農業者として生きていくと決意した。大学卒業後は、国内外を問わず様々な場所で農業のスキルや知識を身につけて就農した。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	(年)	現在の経営 (就農時の経営) (2019年)	将来の経営 (2023年)
労働力	—	男1人(本人)	男1人(本人)
経営耕地	—	樹園地 67 a 計 67 a	樹園地 100 a 計 100 a
経営内容	—	伊予柑 67 a	伊予柑 52 a 愛媛果試第28号 (施設) 12 a 甘平 15 a

○農業用施設

倉庫 40 m²

○主要農業機械

軽トラック 1台

動力噴霧器 1台

草刈機 1台 等

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県東温市

平成24年3月 大学卒業

平成25年3月～27年10月

アメリカ海外農業研修

平成29年8月～30年3月

沖縄県農業研究センター石垣支所

平成30年6月～令和1年5月

JAえひめ中央新規就農研修センター

令和1年10月 就農

(2) 就農時の思い

大学時に将来就農すると決めていたので、卒業後は様々な場所で農業に従事していた。就農するまでに多くの経験を積むことができたので、就農時には、「できる」、「いいものを作れる」という自信はあった。

だが、私が思う農業は、自分で作りたいものは自分で販売経路を見出すことが必要であると考えている。しかし、どの様にすれば上手に販売できるか正直分からない。これからは販売促進やマーケティングを勉強していく必要があると思っている。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

親戚やJAの指導員、地域の先輩から栽培管理等の技術や知識を教わった。

また、近隣農家の農作業の手伝いに積極的に赴き、篤農家の技術・知識の

習得に努めた。

(2) 資金の準備

新規就農であったため様々な機械をそろえる必要があったことから、JAから運転資金を借り入れた。

(3) 農地・住宅の確保

JA新規就農研修センターの関係者から紹介していただき、現在の農地を取得することができた。

(4) その他苦労したこと

一番苦労したのは、園地の近隣に収穫物を貯蔵する場所がなかったことから、農業倉庫を確保することに時間を費やしたこと。

5 農業経営の特徴

現存の樹園地は密植栽培であるため、間伐や作業道を設置し作業性を向上させるとともに、改植等と合わせて生産性や品質の向上に取り組む所得の向上を目指している。

6 これからの夢

現在は伊予柑専作であるが、今後は「愛媛果試第28号」や「甘平」等の品種を導入しながら正品率を高め、高品質生産で所得向上を目指したい。

7 成功したキーポイント

就農してから数カ月と日が浅いので、成功という言葉は口にするのは小賢しいが、1つ私が大事にしているのは、どんな作業内容に関わらず、全力で絶対に手を抜かないことです。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業は未知の可能性を秘めた職業であると思います。作り方が同じで、ほ

ぼ同じ品物だとしても、自分のやり方次第で周りとは違った収入を得られるし、生活を変えられるのはかなり魅力的です。

ただ、いいものを作るのは当たり前時代であり、そこで周りとの差別化を図った経営をするしかありません。自分のやり方次第では、自分の展望を変えることが可能であり、将来の思い描くビジョンを考えて実践できることが一番楽しいと思います。

○ 指導機関からのひとこと

就農前のJA研修時から人一倍熱心に技術や知識の習得に取り組み、就農後も青年農業者協議会活動へ積極的に参加するほか、県事業の実証モデル園設置にも協力するなど、何事に対しても熱い思いで取り組んでいる。

将来は、地域の活性化に貢献する地域のリーダーとして活躍することを期待しています。

執筆機関

中予地方局産業振興課地域農業育成室
電話番号 089-909-8762



伊予柑の収穫作業